

お茶女大家政 ○袖井孝子 鈴木千穂子 佐野志津子
青葉学園短大 長津美代子

〈目的〉 共働き家族における家事分担の状況を、夫と妻の就業形態別に明らかにする。

〈方法〉 1986年を38回日本家政学会研究発表要旨に掲載。および同一対象者から選定した2組の夫婦にたいするケーススタディ。

〈結果〉 ①有職の妻は無職の妻にくらべて明らかに家事遂行レベルが低く、掃除やアイロンの頻度、夕食の準備にかかる時間などが少ない。有職者では、自営業・家族従業者にくらべフルタイム雇用者に家事省略化の傾向が強い。②有職の妻がもっとも重視するのは食生活（食事作り）であり、衣生活（洗濯）はやや軽視、住生活（掃除）は大いに軽視される。この傾向は官公庁のフルタイム雇用者に著しい。③夫の家事参加は、必要性（妻の勤務時間、雇用密度、疲労度）、可能性（夫の在宅時間、労働密度、疲労度、家事能力）および価値観（家事分担観、既婚女性の就業にたいする態度）によって規定される。この3条件を充足することのもっとも少ない経営・管理職の夫に家事参加がもっとも少なく、3条件を充足している官公庁勤務の夫の参加がもっとも多い。④夫婦の組み合わせでは、妻無職・夫経営管理では意識実態ともに性別役割分業の傾向がみられ、夫婦とも官公庁勤務である場合に協業の傾向がみられる。⑤家事や家庭生活に関する満足度は、家事遂行レベルのもっとも低い妻官公庁の場合でさえも満足度はきわめて高い。これは、相手にたいする期待水準に規定されるものと思われる。